

# 平成 29 年度まりも園事業報告

## 1 総括

今年度事業計画で利用者支援の向上に向けて、職員の協業の視点から抜本的に見直すことを今年度の大きな課題として掲げたが職員の欠員状態が解消されず勤務調整の連続のなかで利用者支援を継続せざる得ない状態が年間を通じて常態化した1年でした。又、特別養護老人ホームの稼働率98%を今年度の目標としてあげたが平均稼働率90%を割り込むという事態になりました。これも職員の欠員が少なからず影響し、相談員が本来業務に専念できない状態となったことも一因として挙げられます。適正な職員配置と職員の協力連携体制（チームケア）の構築は急務の課題で、これにより利用者支援の人的・組織的安定化を図ることが稼働率の向上、利用者支援の向上への取り組みの第一歩であり、次年度以降の課題となります。

デイサービスでは、「ご利用者の笑顔！職員も笑顔！」をスローガンにご利用者の夢を叶えられる事業を目指しました。毎月開催する季節の行事ではご利用者からも意見を聴取し、メニューを工夫して外出及び外食行事をたくさん行うことができました。平成29年度は、「河口湖」「東京タワー」等の遠方にもご利用者をお連れすることができました。目標であった稼働率72%を達成することができ、収支を安定することができました。特別養護老人ホームまりも園とまりも園居宅介護相談支援センターの協力を得て、計4回家族懇談会を開催することができました。これから認知症CAFÉ等の地域貢献事業への発展の兆しを見出すことができました。

## 2 利用実績

### 特別養護老人ホーム

	利用者数	利用率	入院日数	入所者数	退所者数
4月	48名	95.6%	12日	0名	0名
5月	48名	95.4%	41日	0名	0名
6月	48名	96.3%	9日	0名	1名
7月	47名	95.9%	1日	0名	0名
8月	47名	89.4%	102日	0名	0名
9月	47名	89.1%	78日	0名	0名
10月	47名	88.5%	116日	0名	1名
11月	46名	84.8%	120日	0名	1名
12月	46名	83.8%	136日	1名	1名
1月	46名	87.4%	88日	1名	1名
2月	44名	78.9%	68日	0名	2名
3月	43名	87.5%	44日	1名	2名
計	46.1名	88.2%	815日	3名	9名

(退所理由：死亡7名 療養2名)

## デイサービス

	利用者数	運営日数	利用率	新規通所者数	退所・休止者数
4月	458名	25日	73.2%	2名	1名
5月	483名	27日	71.5%	0名	1名
6月	457名	26日	70.3%	1名	1名
7月	459名	26日	70.6%	0名	1名
8月	457名	27日	67.7%	0名	1名
9月	474名	26日	72.9%	1名	2名
10月	472名	26日	72.6%	1名	1名
11月	459名	26日	70.6%	0名	0名
12月	476名	26日	73.2%	2名	0名
1月	446名	24日	74.3%	3名	0名
2月	478名	24日	79.6%	3名	0名
3月	499名	27日	73.9%	0名	0名
計	5618名	310日	72.4%	13名	8名

(退所理由：死亡4名 施設入所4名)

## 居宅支援事業所

	計画件数	要支援者数	要介護者数	要介護1・2	要介護3	要介護4	要介護5
4月	46	12	34	27	6	1	0
5月	47	12	35	28	6	1	0
6月	46	11	35	28	6	1	0
7月	47	11	36	29	6	1	0
8月	46	9	37	30	6	1	0
9月	48	9	39	32	6	1	0
10月	47	10	37	30	6	1	0
11月	48	10	38	31	6	1	0
12月	50	12	38	31	6	1	0
1月	51	13	38	31	6	1	0
2月	50	13	37	30	6	1	0
3月	50	12	38	31	6	1	0
計	576	134	442	358	72	12	0

### 3 重点目標(課題)の成果と課題

重点目標	成果と課題
<p>1) ご利用者が安全で、安心していただけるサービス提供を目指します。</p> <p>① 各職域の視点を生かし、利用者の要望を受け止めた個別の施設サービス計画を作成し、それを確実に実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施を具体化するために、居室担当者が施設サービス計画の原案を作成し、介護支援専門員を中心に担当者会議で利用者・家族も参加して決定する仕組みにします。</li> </ul> <p>② 利用者・家族が相談しやすい環境をつくるために、利用者・家族とのかかわりの場を増やします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族に利用者の状況と施設の支援の実態を知っていただくため、利用者と食事をする機会を設けます。</li> </ul> <p>③ 事故報告を分析し、再発防止策を具体化し、職員がかかわる事故及び原因不明の事故をなくします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故報告を早急に作成し、事実関係を明確にし、再発防止対策を利用者個々に対応した具体的な内容とします。</li> </ul> <p>④ 行事、レクリエーションを利用者の立場に立ち見直すと同時に、食事のさらなる工夫や散歩や外気欲など外出機会を増やします。</p>	<p>&lt;特別養護老人ホーム&gt;</p> <p>利用者担当職員が作成したアセスメントシートを基に介護支援専門員が原案を作成し、担当者会議にて施設サービス計画確認、それを基にした支援を提供しました。また、担当者会議の開催日をお知らせしていますが家族の参加はありませんでした。今後の課題としては、担当者会議への家族の参加が増える様に家族へのお知らせの工夫が必要と考えています。</p> <p>&lt;デイサービス&gt;</p> <p>生活相談員がモニタリングシートを作成し、担当の介護支援専門員へ送付し情報提供をしました。</p> <p>&lt;居宅支援事業所&gt;</p> <p>リ・アセスメントシートを用いたアセスメントからサービス提供計画を作成する体制を確立し、個別性のあるケアプランの作成に取り組みました。当該サービス計画を通じサービス提供事業者とサービスアプローチの共有化を深めていく事が今後の課題です。</p> <p>②6月と3月に家族を招待して、利用者が普段食べている食事し食事会を実施しました。家族が利用者の生活を少しでも理解する事ができ、家族への聞き取りにおいても好評を頂きました。</p> <p>医務においては午前、午後の検温時、食事、入浴時などにご利用者に積極的な声かけを行い何気ない会話の中から不安やストレスに思っていることを話せる関係を作ることができました。ご家族が来園した場合は必ず声かけをし、ご家族へ最近の身体状況、変化などをお伝えし関わりが持っています。</p> <p>③介護職員内でのリスク会議を毎月開催し、事故報告内容から改善策を立案し、実施、評価、見直しを行い、事故の再発防止に取り組みました。</p> <p>&lt;特別養護老人ホーム&gt;</p> <p>日々のレクリエーションについては、週4回の午後を利用し、お花見、スタンプラリー、文化祭など外出同行、個別支援では利用者担当と同行し外食支援が行</p>

	<p>えました。又、施設近所や近隣の大学内の散歩やショッピングセンター等まで外出する機会を設け、継続的に実施することができました。</p> <p>今年度より毎月誕生会を実施しました。内容は、誕生者の紹介、ケーキを提供する等を行い、利用者の笑顔が多く見られました。</p> <p>レクリエーション・誕生会共に今後の課題としては、活動内容を見直し、多くの利用者が楽しめる内容の工夫を行っていく必要があると考えています。</p> <p>&lt;デイサービス&gt;</p> <p>職員が調理をした食事を食べながら、カラオケ実施、20名のデイサービスのご利用者と3名のご家族、3名の特別養護老人ホームのご利用者の合計26名が参加されました。参加された利用者からは、「月に1回、このようなイベントを開催して欲しい。」とのご要望をいただきました。</p> <p>季節の行事活動を毎月行うことがルーティンワークとして構築することができ、参加される利用者も増加しました。平成29年度は、「河口湖」「東京タワー」等への遠方にもご利用者をお連れすることができました。</p>
<p><b>2) 高齢者の日常生活を支える業務であることを自覚した職員育成を目指します。</b></p> <p>① 職員個々の業務目標とそれに基づいた研修・教育計画を作成し、職員が研修や自己研鑽に努められる環境をつくります。</p>	<p>&lt;特別養護老人ホーム&gt;</p> <p>人員不足のため、職員個々の業務目標や研修・教育目標の作成、職員個人を対象としたガウンテクニク、汚物処理などの研修や毎月の施設内研修は出来ませんでした。</p> <p>感染症研修、権利擁護研修（デイサービスの職員も参加）を行ない、ご利用者に対する尊厳を守る言葉遣いや、ご利用者の現存能力を引き出す支援の考え方を職員へ周知することができました。</p> <p>機能訓練指導員からの移乗・ポジショニング研修・事故防止研修や看護師からの吸引研修・管理栄養士からの食中毒研修など各職域からの専門的な研修を実施し、職員のスキルアップに取り組みました。</p> <p>&lt;居宅支援事業所&gt;</p> <p>研修会などでの情報を生かし業務の振り返りを行い、実際の支援に直面した際の適切な対応を図る体制の確立に取り組みました。その上で具体的にソーシャルワーク、アクションを行うことが今後の課題です。</p>

<p>② 法人の理念、コンプライアンスについて定期的に確認する場をつくり、理念、コンプライアンスの徹底を図ります。</p> <p>③ キャリア段位制度のアセッサーを増員し、常勤介護職員の5割を段位2以上の獲得を目指します。</p>	<p>②虐待防止・身体拘束廃止・苦情処理に対しての内部研修を職員参加型として2回実施しました。職員参加型の研修を行なったことで虐待防止・身体拘束についての理解がより深まりました。</p> <p>職員のアンケートは実施できませんでした。</p> <p>③ 現場職員の配置が乏しい状況があり、キャリア段位制度のアセッサーを増員すること及び、段位取得者を増員することはできませんでした。</p>
<p><b>3) 職員の連携を強化し、職員集団の利用者支援の質を向上させます。</b></p> <p>① 特別養護老人ホームは、職種内だけでなく、他職種からも学びあい、利用者支援の視点と支援内容を向上させます。そのために、各職域の会議を定期的開催し、職員の意見も反映し、フロア会議で支援や運営の改善を検討します。</p> <p>② デイサービスは、非常勤職員を含め業務の業務分担を整理し、職員の意見が反映した職員会議の運営をし、支援の見直しを行います。</p> <p>③ 居宅支援事業所は、定例会議を行い、業務内容の確認、見直し、サービス提供全般の振り返りを行い、円滑かつ効果的支援方法を確立します。</p>	<p>&lt;特別養護老人ホーム&gt;</p> <p>フロア会議や職域会議にて第三者委員の活動報告をもとに、苦情・要望項目を検討し、改善・対応についての報告を第三者委員に行いました。また、直接利用者に関わる内容については、ご家族への報告も行いました。</p> <p>&lt;デイサービス&gt;</p> <p>平成29年度中には、業務分担表の見直しが出来ませんでした、平成30年度内に業務分担表を見直すことで、常勤及び、非常勤職員の明確な役割を示し対応します。</p> <p>月に1回、アクティビティ会議を開催しご利用者の楽しみを見出すためのアクティビティ活動の構築は職員全体で行うことができ支援の見直し繋がりました。</p> <p>&lt;居宅支援事業所&gt;</p> <p>定例会議を設ける事が業務上のスケジュールから確立する事が出来難い状態にあったが、当日の業務前及び業務終了後に支援全体の情報を職員間で共有は図れました。</p>
<p><b>4) 地域住民に向けた情報提供に積極的に取り組みます。</b></p> <p>① 職員の専門性を生かし、デイサービスが中心となり地域住民に向けた講習会を年4回以上開催します。</p>	<p>家族懇談会を予定通りに計4回開催しました。家族懇談会では、ご利用者のご家族が抱えている介護の問題等を話し合う場を提供しました。</p> <p>内容は、デイサービスの役割(参加者5名)、居宅介護支援(参加者4名)、特別養護老人ホームの概要説明と施設見学(参加者6名)、転倒予防体操と施設の食事(試食も)(参加者6名)でした。</p>
<p><b>5) 財政の安定化を目指し、業務の見直しを行います。</b></p>	<p>&lt;特別養護老人ホーム&gt;</p> <p>年間利用率は88.2%であり財政の安定化を図るこ</p>

<p>① 今年度の利用率の目標は、特別養護老人ホーム97%、デイサービス72%、居宅支援事業所は70%とします。</p> <p>特別養護老人ホームの定員は職員体制の確立の優先し、中期計画の目標より1%下げ、職員の利用者支援などの協力体制を強めるとともに職員配置の抜本的見直しを検討します。</p>	<p>とが出来ませんでした。</p> <p>退所者9名、新規入所者3名で、ケアワーカーの人員不足により生活相談員が介護現場に異動し、生活相談員の交代及び、介護現場の人員不足等が主な要因です。</p> <p>&lt;デイサービス&gt;</p> <p>年間稼働率は72.4%です。達成することができた要因は、・居宅介護支援事業所へ毎月、ご利用者の詳細の状況報告に基づいたモニタリング書類を作成し報告を行い、介護支援専門員とのラポール形成を図ったこと。ご利用者の毎月楽しみとなる行事活動を行い、ご利用者の生きがいを見出したこと。3ヶ月に1回の期間に家族懇談会を開催し、ご家族とのラポール形成を図ったことなどがあげられます。</p>
<p><b>5 生活・職場環境の改善</b></p> <p>1) 利用者が清潔で安全な環境で生活できるように努めます。</p> <p>2) 職員の労働環境や労働条件の改善に取り組みます。</p>	<p>&lt;特別養護老人ホーム&gt;</p> <p>1) 職員の異動や介護職員の不足の状況により点検シートについては、途中で実施が中断してしまいました。しかし、業務内において、清掃時間を確保し、ケアワーカー室の改修により棚等の設置を行った事で整理整頓が行え、清潔が確保できました。</p> <p>2) ケアワーカー会議にて職員の意見を集約し、ケアワーカー室及び4階休憩室の修繕を行いました。それにより、事務作業の確保及び整理ができ、効率的に事務作業を行う事ができるようになりました。また、4階休憩室の修繕で、休憩場所の確保ができ休憩の質も向上しました。</p> <p>医務室では、医務室会議の開催し他部署の管理者も参加して、職場環境や職員の連携について改善に努めました。</p>

#### 4 苦 情

##### 特別養護老人ホームまりも園

苦情申立月	苦情の内容	対応と結果
8月	<p>事故の報告に関して： 関係機関報告事故②について家族から説明を求める苦情がありました。</p>	<p>事故後直ちに報告をしたものの、納得出来る事故原因ではなかったため、丁寧な説明を行い、事故防止策についても納得いただきました。</p>

まりも園デイサービス

苦情申立月	苦情の内容	対応と結果
6/17 (土)	送迎支援に関して： 地域住人の方より、「高齢者施設の車輛なのに運転手の態度が悪かった。」との苦情が電話にてありました。	職員は謝罪を行い対応しました。 送迎車輛はまりも園の看板も背負っておりますので、送迎支援を行っている際に、運転及び添乗対応を行う職員は最大限の安全配慮をすると共に、地域住人の方々にご迷惑をお掛けしないようモラル（倫理・道徳）を持ち対応していくことを全職員へ周知しました。
10/10 (火)	入浴支援に関して： 入浴後に未だ身体が濡れている状態にもかかわらず、一職員より「早く下着を着けてください」と言われたことが不快であったとの報告がご利用者より、ご家族を通し電話連絡にて苦情がありました。	相談員より、キーパーソンとご利用者へ、改善策のご報告及び、謝罪をさせていただきました。 ご利用者のペースに合わせて介護支援を行うこと、説明と同意（インフォームド・コンセント）の上で介護支援を行うことを全職員へ周知しました。
10/18 (水)	入浴支援に関して： ご利用者が履かれていたパンツの上に使用済みの尿汚染のあったリハビリパンツを履いたとの苦情がありました。	送迎時にキーパーソンへ作成した文書をお渡しし、改善策を報告し、再度謝罪をしました。 入浴支援において、入浴中介助の職員 2 名と入浴外介助の職員 2 名は声掛けにて連携を確りと図り、ほぼ自立のご利用者に対しても着脱支援の介助を確実にを行うよう周知しました。
2/22 (木)	入浴支援に関して： ご利用者の持参された物品（下着等の衣類とリハビリパンツ）を確認すると交換がされていない状況がありました。	相談員がご自宅へ訪問をし、ご家族へ発生した経緯と改善策を報告しました。 入浴支援前の脱衣支援の際に、確実に対応する職員は衣類交換の確認及び差し替えを行うこと。入浴外介助の職員 2 名と入浴中介助の職員 2 名の合計 4 名体制にて入浴サービスの支援は成されておりますので、確実に且つ円滑に支援に怠りが発生しないよう職員間の声掛けによる確認作業を徹底し連携を図るよう全職員へ指導しました。

5 事 故

特別養護老人ホーム

種別	件数	摘 要
関係機関報告事故	4 件	①転落(入浴中にストレッチャーより転落、入院となったが、その他の原因にて死亡となり退所) ②転落(夜間車椅子より転落、通院加療)

		③転落(トイレ内にて転落、通院加療) ④感染症(インフルエンザ発症にて利用者 23 名、職員 5 名罹患)
施設対応事故	233 件	① 転倒関連 (転倒 29 件、転落 50 件、滑落 0 件)、(介護中の事故 2 件再掲) ② 怪我関係 (内出血 117 件、切傷 5 件、擦過傷 6 件、表皮剥離 7 件) ③ 服薬関係 (なし) ④ 食事関連 (異食 3 件、過剰摂取 5 件) ⑤ その他 11 件 (利用者間トラブル、無断外出、私物破損、設備破損)
ヒヤリハット報告	284 件	⑥ 転倒関連 (転倒 66 件、転落 51 件)、 ⑦ 怪我関係 (内出血 122 件) ⑧ 服薬関係 (なし) ⑨ 食事関連 (異食 5 件、過剰摂取 3 件、誤嚥 6 件) ⑩ その他 (利用者間トラブル 6 件、無断外出 2 件、その他 23 件)

#### デイサービス

種別	件数	摘要
関係機関報告事故	0 件	
施設対応事故	18 件	① 転倒関連 (転倒 7 件、転落 3 件) 介護中の事故なし ② 怪我関係 (内出血 2 件、擦過傷 3 件) ③ 服薬関係 (なし) ④ 食事関連 (誤配膳 0 件、過剰摂取 1 件) ⑤ その他 2 件
ヒヤリハット報告	14 件	② 転倒関連 (転倒 6 件) ② 怪我関係 (内出血 1 件、切傷 1 件、火傷 1 件) ③ 服薬関係 (なし) ④ 食事関連 (異食 1 件、過剰摂取 1 件) ⑤ その他 2 件

#### 4-① 入所者・通所者の状況(平成 30 年 3 月 31 日現在、通所は平成 30 年 3 月の通所者)

##### 特別養護老人ホーム入所者

	男性	女性	計
男女内訳	8 名	37 名	43 名
平均年齢	83.6 歳	86.1 歳	85.6 歳
平均在所期間	3 年 3 月	6 年 8 月	5 年 11 月

##### デイサービス利用者

	男性	女性	計
男女内訳	13 名	30 名	43 名
平均年齢	84.0 名	86.9 名	86.0 名
平均利用期間	2 年 1 月	3 年 2 月	2 年 9 月



#### 特別養護老人ホーム入所者要介護区分

区分	要支援者	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
28年度	0名	0名	1名	4名	22名	22名
男性	0名	0名	0名	1名	5名	2名
女性	0名	0名	1名	3名	16名	15名
29年度計	0名	0名	1名	4名	21名	17名

#### 短期入所者要介護区分

区分	要支援者	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
28年度	0名	0名	0名	0名	0名	0名
男性	0名	0名	0名	0名	0名	1名
女性	0名	0名	0名	0名	0名	0名
29年度計	0名	0名	0名	0名	0名	1名

#### 通所利用者要介護区分

区分	要支援者	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
28年度	5名	8名	12名	4名	6名	2名
男性	1名	7名	3名	0名	1名	1名
女性	4名	5名	12名	6名	3名	0名
29年度計	5名	12名	15名	6名	4名	1名

#### 4-② 利用者の身の周りの自立の状況(平成30年3月31日現在) \*通所は平成30年3月利用者

##### 特別養護老人ホーム

##### 1) 食事状況

区分	自立	一部介助	全介助	経管栄養	合計
男	7名	1名	0名	0名	8名
女	13名	11名	10名	1名	35名
計	23名	15名	11名	1名	49名

##### 2) 排泄の状況

区分	自立	一部介助	全介助	合計	ポータブル使用	おむつ使用
男	2名	6名	0名	8名	0名	0名
女	1名	19名	15名	35名	1名	15名
計	3名	25名	15名	43名	1名	15名

##### 3) 入浴の状況

区分	一般浴槽			機械浴槽	合計
	自立	一部介助	全介助		
男	0名	4名	0名	4名	8名
女	0名	4名	0名	31名	35名
計	0名	8名	0名	35名	43名

#### 4) 洗面等の状況

区分	洗面				更衣			
	自立	一部介助	全介助	合計	自立	一部介助	全介助	合計
男	3名	5名	0名	8名	2名	6名	0名	8名
女	2名	14名	19名	35名	1名	18名	16名	35名
計	5名	19名	19名	43名	3名	24名	16名	43名

#### 5) 移動の状況

区分	歩行		歩行器	車椅子			合計
	自立	一部介助		自立	一部介助	全介助	合計
男	1名	1名	0名	4名	1名	1名	8名
女	0名	5名	1名	6名	6名	17名	35名
計	1名	6名	1名	10名	7名	18名	43名

デイサービス（平成30年3月利用者）

#### 1) 食事状況

区分	自立	一部介助	全介助	経管栄養	合計
男	10名	3名	0名	0名	13名
女	24名	6名	0名	0名	30名
計	34名	9名	0名	0名	43名

#### 2) 排泄の状況

区分	自立	一部介助	全介助	合計	ポータブル使用	おむつ使用
男	10名	1名	2名	13名	0名	0名
女	20名	9名	1名	30名	0名	0名
計	30名	10名	3名	43名	0名	0名

#### 3) 移動の状況

区分	歩行		歩行器	車椅子			合計
	自立	一部介助		自立	一部介助	全介助	合計
男	8名	2名	0名	0名	0名	3名	13名
女	10名	9名	5名	1名	2名	3名	30名
計	18名	11名	5名	1名	2名	3名	43名

## 5 職種別職員数(平成30年3月31日現在)

### 特別養護老人ホーム

	常勤	非常勤	常勤換算	再雇用	常勤換算	嘱託	常勤換算	派遣	常勤換算	職員数計	常勤換算
施設長	1									1	1
事務員	2									2	2
生活相談員	1									1	1
介護支援専門員	1										
介護職員	14	6	1.9					1	1.0	20	16.9
看護師	1	4	2.0							5	3.0
柔道整復士	1									1	1
管理栄養士	1	1	0.8							2	1.8
調理員	3	3	2.0							6	5.0
洗濯員		3	1.3							4	1.3
医師						2	0.1			2	0.1
その他											
合計	25	17	8.0			2	0.1	1	1.0	44	33.1

### デイサービス

	常勤	非常勤	常勤換算	再雇用	常勤換算	嘱託	常勤換算	派遣	常勤換算	職員数計	常勤換算
生活相談員	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
介護職員	2	5	4.8	0	0	0	0	0	0	7	6.8
看護師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
准看護師	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
運転手	0	2	0.6	0	0	0	0	0	0	2	0.6
計	3	8	6.4	0	0	0	0	0	0	11	9.4

### 居宅支援事業所

介護支援専門員	1	1	0.8							2	1.8
---------	---	---	-----	--	--	--	--	--	--	---	-----

## 6 ボランティア・実習生の受け入れ人数 (月ごとの実人数と延べ人数を表にする。)

### 特別養護老人ホーム

活動名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
書道	人数	3	2	1					1					7
	延べ	3	2	1					1					7
ちぎり	人数	2	2	2	2			2	2				2	14

絵	延べ	2	2	2	2			2	2				2	14
昼食	人数		1		1	1	1	1	1	1			1	8
	延べ		1		1	1	2	2	1	3			3	14
演奏	人数								2	2			2	6
	延べ								2	2			2	6

### デイサービス

活動名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
みんなで大正琴	人数	2	2	2	2	3	2	2	2	2	3	2	3	27
	延べ	2	2	2	2	3	2	2	2	2	3	2	3	27
音楽クラブ	人数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	延べ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
尺八クラブ	人数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	延べ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
アコーディオン演奏会	人数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	延べ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
生花クラブ	人数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	延べ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
みんなで歌いましょう	人数	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
	延べ	2	0	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	21
レクタイム	人数	1	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	5
	延べ	1	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	5
大正琴で歌いましょう	人数	7	6	7	6	6	0	7	5	7	7	7	6	71
	延べ	7	6	7	6	6	0	7	5	7	7	7	6	71
民謡を聴く会	人数	4	4	4	2	2	3	3	4	5	3	3	3	40
	延べ	4	4	4	2	2	3	3	4	5	3	3	3	40
ういす武蔵小金井保育園	人数	9	13	0	0	0	25	0	30	0	0	30	30	137
	延べ	9	13	0	0	0	25	0	30	0	0	30	30	137
フラダンス	人数	6	6	4	6	6	0	3	3	4	0	5	6	49
	延べ	6	6	4	6	6	0	3	3	4	0	5	6	49
朗読クラブ	人数	2	1	2	2	1	1	1	2	2	1	1	1	17
	延べ	2	1	2	2	1	1	1	2	2	1	1	1	17
臼井★夫婦コンサート	人数	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	延べ	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
コロロ探検隊	人数	0	30	31	0	0	30	20	0	0	0	0	0	111
	延べ	0	30	31	0	0	30	20	0	0	0	0	0	111
将棋ボランティア	人数	0	0	2	2	0	0	0	2	2	2	2	2	14
	延べ	0	0	2	2	0	0	0	2	2	2	2	2	14

日本新舞踊	人数	0	0	0	13	0	10	0	0	11	0	0	0	34
若香月会	延べ	0	0	0	13	0	10	0	0	11	0	0	0	34
フラダンス	人数	0	0	0	6	0	0	0	0	0	10	0	0	16
LUAPUA	延べ	0	0	0	6	0	0	0	0	0	10	0	0	16
サレジオ学	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	30
園学生ベル	延べ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	30
活動ボラン	人数	0	0	0	2	0	0	1	1	4	0	2	3	13
ティア	延べ	0	0	0	2	0	0	2	1	4	0	2	4	15

## 実習生の免許資格・実習期間

### 特別養護老人ホーム

学校名	免許資格	実習期間	日数	人数	受入事業所
日本福祉大学	社会福祉士	7/6～9/13	24	2	特養
東京学芸大学	社会福祉士	9/11～10/12	24	1	特養
大東文化大学	教職免許	9/4～10/6	5	9	特養

### デイサービス

学校名	免許資格	実習期間	日数	人数	受入事業所
明治大学	教職免許	8/7～8/12 8/14～8/19 8/21～8/26 8/28～9/2 9/4～9/9 9/4～9/23 10/2～10/7 10/9～10/14 10/16～10/21	5日間	17名	まりも園 デイサービス センター
明星大学（通信 教育過程）	教職免許	8/28～9/2 9/11～9/16 9/18～9/23 9/25～9/30	5日間	10名	まりも園 デイサービス センター
東京経済大学	教職免許	8/7～8/12 8/28～9/2 9/4～9/9 10/2～10/7	5日間	4名	まりも園 デイサービス センター
文教大学	教職免許	8/14～8/19 8/21～8/26 9/25～9/30 10/2～10/7	5日間	5名	まりも園 デイサービス センター
十文字学園女子 大学	介護福祉士	11/4～11/25	4日間	3名	まりも園 デイサービス センター

## 職場体験（体験学習）

### デイサービス

団体名	目的	回数	延人数	摘要
上水中学学生	職場体験	4回	8名	まりも園デイサービスセンター
花小金井南中学学生	職場体験	4回	8名	まりも園デイサービスセンター
小平第6中学学生	職場体験	4回	4名	まりも園デイサービスセンター
小平市役所職員	職場体験	1回	2名	まりも園デイサービスセンター

## 9 福祉サービス第三者評価の報告

### 特別養護老人ホーム

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	評価 利用者の状態に応じて、楽しめるような機会の創出を期待する	オプションで実施した家族アンケートでは、「アクティビティなどの催しが少ない」などのコメントが寄せられていた。施設内では、体操やゲームなどを行っているが、生活の中のごく一部である。趣味を楽しめる一部の利用者以外、大半の利用者は楽しむ時間を持っていない現状がある。利用者の状態に応じて、楽しめるような機会の創出を期待する。
	改善	アクティビティ会議を開き活動内容の種類を増やし、多くの利用者が楽しめる内容の工夫を行っていきます。
2	評価 利用者が地域の中で生活を楽しめるよう、個別外出の機会を増やす工夫を期待したい	職員アンケートでは、「地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っているか」に関して、リーダー層・一般職員とも自己評価が低かった。近くの大学の文化祭や地域の盆踊り大会に参加したり、初詣やお花見、紅葉狩りなど利用者が季節を感じられるよう、外出する機会を設けている。しかし、利用者調査では、「外出したいけど、自由にできない」などの声が寄せられた。今後は、利用者が地域の中で生活を楽しめるよう、個別外出の機会を増やす工夫を期待したい。
	改善	今年度は施設近所や近隣の大学内の散歩やショッピングセンター等まで外出する機会を設けたが、ケアワーカーと連携しアクティビティ会議などでさらなる充実していきます。
3	評価 職員の就業環境の改善に努め、安定的な人材確保に向けたなお一層の取り組みを期待する	オプションで実施した家族アンケートには、職員確保や、職員の労働環境を心配するコメントが寄せられていた。また、施設としても、残業時間の削減が課題として継続している。人材確保は、当事業所に限った問題ではなく、介護業界全体の課題でもあるが、今後も引き続き、残業時間の削減など職員の就業環境の改善に努め、安定的な人材確保に向けたなお一層の取り組みを期待する。
	改善	人材確保が急務の課題であり、色々な媒体を使い人材確保に努め早期の職員体制の安定化を図ります。

デイサービスセンター

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	評価	施設長（経営運営側）と現場とのコミュニケーションが図れていない。
	改善	施設長に会議等への参加を申し立てる。
2	評価	現場職員個別の知識及び、技術の差が生じている。
	改善	研修の機会を設ける。職員に対し、自己研鑽に励むよう意識付ける。
3	評価	地域貢献事業の取組に乏しい。
	改善	認知症 Cafe 等の新規事業を開拓する。認知症 Café を開催することにより、相談員配置加算（15 単位/1 日）を算定することが可能となり収益にも繋がる。